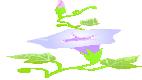


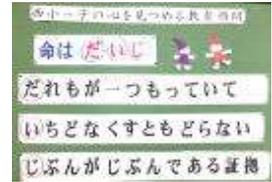


西有家小学校だより 5号  
 校訓 (勤労・勉学・大志)  
 学校教育目標 明るく心の美しい子ども

令和6年 7月 1日  
 南島原市立西有家小学校  
 TEL 73-6741  
 (文責 校長 大古場)



## こころ(命)を見つめて



6月14日から20日までの「西小っ子の心を見つめる教育週間」には、多数の保護者や地域の方にご来校いただき、子どもたちの様子をご参観いただきました。教育週間初日の14日は全校朝会において校長の「命についての講話」から始まり、その日の5校時には、西有家地区全ての民生児童委員様にも子どもたちの様子を見ていただきました。最終日の20日は各学級において道徳科の授業参観、そして学級部会を実施しました。今年度は、全校一斉の授業参観日以外でも子どもたちの様子を参観される保護者や地域の方も多く、この1週間で延べ350人以上の大人の方にご来校いただき、大変ありがたく思いました。これからも保護者や地域と一体となって子どもたちを育ていける学校づくりのさらなる充実を目指してまいりますので、ご支援、ご協力をどうぞ、よろしくお願いたします。

以下、校長講話の一部(要約を含む)を紹介いたします。

### 「日常の命」 ～命を考える～

Q1 「誰もが一つもっていて、一度なくすと戻らないもの」は何だと思えますか？ → そうです。命ですね。

Q2 「命ってどこにあるの？ 命があるって、どうやって分かるの？

→ そうです。心臓ですね。心臓のドクドクという音を鼓動と言います。聞いてみましょう。(実際に心臓の鼓動音を流す) この鼓動こそが正に生きている、命があるという証拠ですね。その命の中には、だれもが「からだ」と「こころ」をもっています。だから、「からだ」や「こころ」が痛んだり、壊れたりすると、心臓の鼓動は普段と違って、速くなったり不規則になったりします。あまりにも変化が大きすぎると、規則正しく心臓を叩くことができなくなったりして、人の体と心を支える命の具合が悪くなるのです。西有家小では、お母さんたちが命がけで産んでくれた体と心を傷つけようとする人がいませんか？ 周りの人の「体」と「心」を傷つけようとする人は、人の命を大切にしていないということです。(省略)

では「命を大切にする」とは、どうすることでしょうか。まずは、事件や事故に遭わないように注意することや、体を丈夫にするために健康に気を付けた生活をするのが大事です。事件や事故に遭わないようにするなら、家の中にじっとしていればいいかというところではありません。それでは、きっと体にもよくないし、心が弱っていくのではないかと心配になります。心も体も元気で命を輝かせるためには、当たり前の日々を送ることです。学校に来ていろいろな友だちと繋がり、一緒に勉強したり、笑顔で過ごしたりすることが一番、命を大切にしていることになるのです。命は体だけでなく、心とも繋がっていますから、友だちを傷付ける言葉にもお互いに気をつけましょう。自分の命が大事なように、友だちの命もとても大事なのです。命がけでお母さんが産んでくれたかけがえのない命を毎日、お互いに元気に学校へもってきて、みんなと交わる中でその命を大きく膨らまし、また、元気に家にもって帰ることがとても大切です。(省略)

命が尊いのは「自分が自分である証」だからです。証とは証拠という意味です。命というものには色も形もありませんし、見えるものでもありませんが、一人一人違うのです。あなたの命は、あなたの中にしかありません。誰かと取り替えることはできないし、あなたの命がなくなれば、その代わりはどこにもないのです。つまり、あなたの命はあなたそのものなのです。



この世界にはおよそ80億人もたくさんの人が暮らしていますが、あなたとあなたの命はかけがえのないたった一つの存在です。みなさんは、そんな大切なものをもっているのです。「だれもが一つもっていて、いちどなくすと戻らない じぶんが自分である証拠」最初の文字を集めると「**だ・い・じ**」です。命は大事。世界で最も大事なものの、それが命です。あなたの命を、あなた自身でいつまでも大事にしてください。

※ (裏面に続きます)

## 「自分からのあいさつ」～今年度の重点目標～

「よくあいさつをしてくれます。」「毎朝、子どもたちのあいさつに元気をもらっています。」これは、地域の方からいただいた、嬉しいお言葉です。本校では町内の5校が統合した8年前から「あいさつ日本一」の幟旗を掲げてあいさつの定着に力を入れています。今年度は、特に「自分から先にあいさつをすること」を重点目標として取り組んでいます。「あいさつ（挨拶）」の言葉の「挨」は心を開く、「拶」は近づくという意味があるようです。つまり、あいさつとは「心を開いて、相手に近づくということ」です。しっかりとあいさつができるようになれば、お互いの心の距離が縮まったこととなります。だからこそ、自分から先にあいさつができるようになってほしいところです。相手の気持ちを意識してあいさつをし、みんなが「気持ちいいな。」「なんだか元気が出るな。」となっていくよう、「自分からのあいさつ」の定着に向けて励み続けていきます。



## 泳力を伸ばすために ～講師の協力を得て～

6月10日にプール開きを行い、各学年、6・7月中に10時間程度の計画で水泳の授業を実施しています。今年度は、B&Gからの2名の講師による水泳学習を実施しました。子どもたちは、講師の方の指導のもと、「伏し浮き」や「け伸び」など基礎練習に懸命に取り組んだので泳げる距離がぐんぐんと伸びました。ほとんど泳ぐことができなかつた子があと少しで25m泳げるようにもなっています。これから泳ぐ楽しさや達成感をさらに味わうことができるよう指導してまいります。



ちなみに夏休み(7/29～7/31)には、3年生から6年生までの15m泳げない子を対象とした水泳教室(市教委主催)が西有家プールでありますので、ぜひ参加して泳力を伸ばしてほしいと思います。

## 意欲のある子って? ～サポートのあり方～

当たり前ですが、学校にはいろいろなタイプのお子さんがいます。探究心の強い子、何でも自分でやる子、発表が得意な子、人に任せてしまう子、リーダーになりたい子、指示される方がいい子...など。それぞれがその子の持ち味であり、長所になったり短所になったり、とても魅力的なところだと思います。その中でも自分から物事にチャレンジし、疑問を解決していく「意欲のある子」について考えながら、子育てについて振り返ってみたいと思います。実は、『意欲のある子』『欲の少ない子』の分かれ道はどんなところにあるのかな?と、考えるきっかけが以前ありました。テレビで、ある投稿画像を紹介していたのです。内容は、以下の通りです。

1歳くらいの子どもが、水道の蛇口(上から押すと水が出るタイプ)を押すと下から水が出るのですが、押し方が弱いのでほんの一瞬しか出ません。その子は、押してから手をかざすのですがその前に止まってしまうのです。その行為を延々と繰り返すのです。おそらく20回以上、映像が終わるまでやり続けていました。

自分だったら、押してあげて手を洗わせてしまいそうです。でも、自分の力でやって何度も失敗した末に成功した体験があったら、こんな小さな子でも「自分でもできる。」という思いを抱くのではないかと考えました。そして、そのような繰り返しこそが「意欲のある子」「自分の力を信じる子」を育てていくのではないかと思います。子育ての中では、忙しさのあまり、手を差し伸べてしまい、うまくクリアさせてきたことが多く、意欲の芽を摘んでいたと感じられることもあるのではないのでしょうか?これに類似した事例は学校場面でも起きていていると思います。時間と心の余裕、環境の安全性がないとできませんが、見守ること、上手に失敗させることも大切だと感じます。

しかし、失敗のタイミングも重要です。その時の子どものモチベーションによって、失敗してもいいときと、今は失敗させたくないときなどがあります。そして、そのあとのフォローのあり方などは子育ての大変なときであるかと思いますが、それ以上にやりがいのあるときでもあります。お子さんの状況をよく見て、助け船の出し方を考えてみるのも楽しい子育てにつながります。友人、学校、相談機関など、相談できる場もたくさんあります。ぜひ心に余裕をもち、子育てを楽しまれることを願っています。



## 7月行事予定

- 3日(水) 全校朝会、委員会活動
- 4日(木) 学校支援会議
- 5日(金) 衛生センター見学(5年)
- 9日(火) ふるさと発見ツアー(6年)
- 17日(水) 地区児童会
- 19日(金) 1学期終業式(給食あり)
- ※ スクールカウンセラー来校日 7/16
- ※ 短縮授業 7/5、7/8、7/9  
全学年、給食後に下校となります。



## 8・9月行事予定

- 8月 9日(金) 登校日、平和集会
- 8月10日～18日 学校閉庁日
- 8月21日(水) 登校日
- 8月24日(土) PTA環境整備作業
- ” おやじの会砂上げ作業
- 9月 2日(月) 2学期始業式(給食開始)
- 9月5日～6日 夏休み作品展
- 9月6日(金) 全校授業参観、学級部会
- 9月18日(水) クラブ活動